

三浦半島・久里浜付近の完新世海成段丘と ^{14}C 年代資料

菅 沼 健*

A ^{14}C age of terrace deposit at Kurihama, Miura
Peninsula, southern Kanto

Takeshi SUGANUMA

(With 2 text-figures and 1 plate)

A fossil from the deposits of the marine terrace at Kurihama, Miura Peninsula, gives the age of $3,680 \pm 130$ yr. B.P., by the radiocarbon dating method. This age suggests that this marine terrace is not the same as the "Numa Terrace". Emergence of this took place about 3,700 yr. B.P., due to seismic upheavals.

はじめに

房総半島南端から三浦半島を経て大磯丘陵南部に至る南関東一帯は、完新世海成段丘が発達している全国的にもまれな地域である。特に、「沼段丘」あるいは「沼面」と称されて来た完新世最高位段丘が、海拔 20 m 以上にまで達することから、縄文海進最高期以降も激しい地殻変動が継続しており、相模トラフに沿って発生した過去の巨大地震に伴う地殻変動量が累積し、海成段丘が形成されたと考えられている(米倉・安藤, 1973; 松田ほか, 1974; YONEKURA, 1975)。

この「沼段丘」の各地における高度分布を求め、それをを用いて縄文海進最高期以降の地殻変動様式を解明することが、南関東における地形研究の主題の1つであった。最近、 ^{14}C 年代測定を行なって各段丘の離水時期を直接求めようとする試みが行なわれ (MATSUDA *et al.*, 1978; 中田ほか, 1980), また沖積層中に含まれる貝類遺骸群集より縄文海進の環境状況を把握しようとする試みも行なわれる(松島, 1979; 1980 など) など、完新世海成段丘に関する研究は、年代的・古環境的な方向へ新たな発展を見せている。この結果、 ^{14}C 年代資料の急激な増加とともに、従来沼段丘と考えられていたものの分布がはるかに複雑で、今までの対比に問題のあることもわかってきた(松島, 1980; 中田ほか, 1980)。

今回、これらの段丘のうちの一つ、神奈川県横須賀市久里浜、住吉神社付近で、離水時期を示すと思われる ^{14}C 年代資料を得ることができたのでここに報告する。

* 日本工営(株)東北支店. Tohoku Branch, Nippon-Koei Co. Ltd., 1-12-12, Honcho, Sendai 980, Japan.

原稿受理 1981年8月8日, 横須賀市博物館業績第299号.

¹⁴C 年代試料の採取状況と測定結果

今回試料を採取した地点は、横須賀市久里浜八丁目、住吉神社の載る段丘面の南側の崖である(第1, 2図)。

現在、この露頭は下位 2m が石積み擁壁で被われているため全体を観察することは出来ないが、松島(1980)には露頭出現当時の状況が述べられている。それによると、1949年頃道路工事に伴って出現し、その後の遺跡調査に際し、赤星直忠が記録していたこと、その記録によると、最下部に泥岩礫からなる礫層、その上部に貝殻を含む砂層、さらにその上部には縄文土器片、泥岩礫を含む貝層が重なるとし、赤星の原図(第2図)を示している。また、貝層中の縄文土器片は、何れもはなはだしく磨耗した縄文中期初頭から前葉の五領ヶ台式、勝坂式、阿玉台式の土器であり、土器形式の示す年代は、約 5,000~4,500年前であることも述べている。

松島(1980)に示されている赤星の原図と対比すると、今回の試料採取位置は、縄文土器片を含んだ自然貝層と一致する(第2図)。この位置より、オオヘビガイ(*Serpulorbis imbricatus*)、イガイ(*Mytilus coruscus*)、イタボガキ(*Ostrea denselamellosa*)を採取できた。これらの貝殻(図版 22)は、いずれも殻の表面が破損摩滅しているが、地形・堆積物などから判断して、生息地からあまり移動せずに堆積したものと考えられる。また、これらの種は、岩礁底の潮間帯下数 m までに多く生息することが知られており、当時の海水準に近いものと思われる。

年代測定には、オオヘビガイを使用した。以下に測定結果を示す。

¹⁴C 年代資料

測定 値: 3,680±130 yr. B.P.

測定 番号: TH-585

測定 者: 菅沼 健(東北大学大学院在学中, 同大学理学部地理学教室の¹⁴C年代測定装置を利用して測定)

測定 試料: *Serpulorbis imbricatus* (DUNKER) (オオヘビガイ)

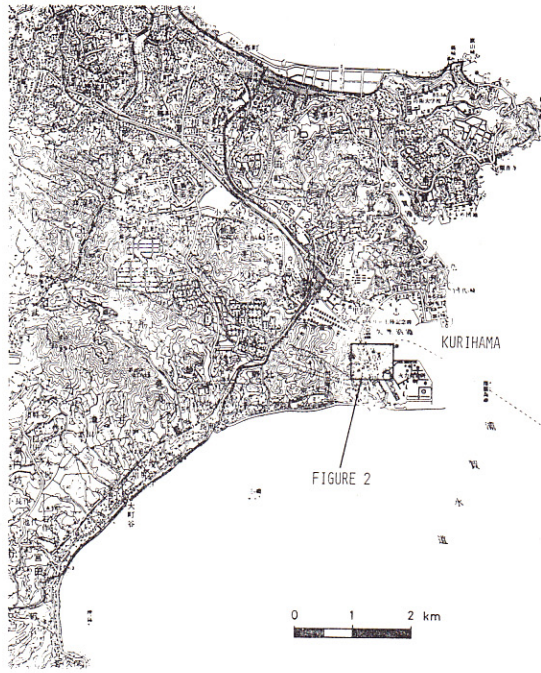
試料採取年月日: 1980年4月26日

試料採取者: 菅沼 健

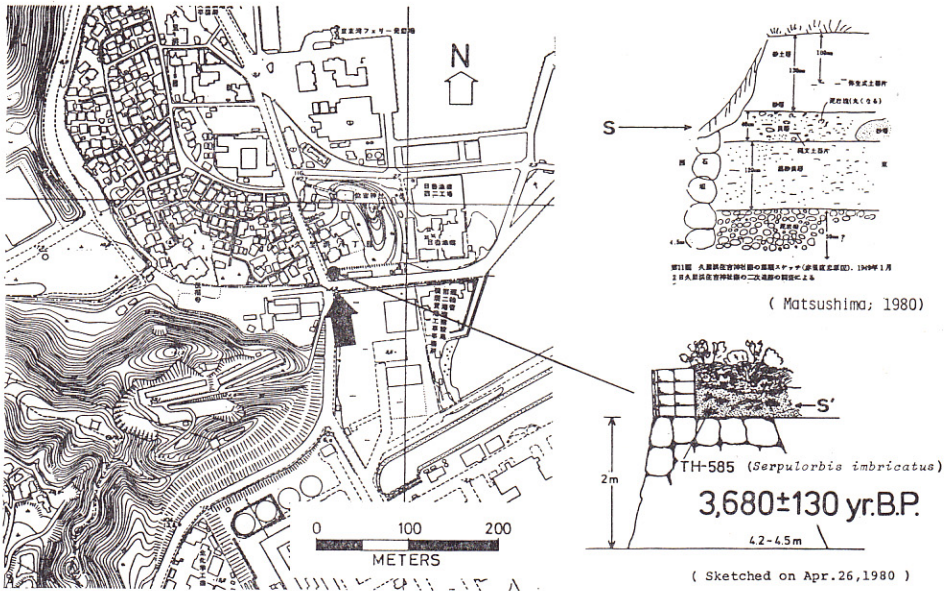
試料採取地点: 神奈川県横須賀市久里浜八丁目, 住吉神社南側; 35°12'49"N, 139°43'10"E; 海拔 6.3m

測定結果とその意義

住吉神社の面は、SUGIMURA and NARUSE (1954)によって初めて指摘された。しかし、周辺地域に比べて高度が低い(8m)ということから、あまり重要視されなかった。「沼段丘」ではないとする積極的資料が得られない状態でのこの様な扱いは、この段丘が当地域での最高位段丘とするならば、最高位段丘=沼段丘とする考えと矛盾するのではないだろうか。このことは他の地域についても言えることである。今回、改めて本段丘が沼段丘とはならず、はるかに新しい時期に形成されたものであることを指摘することができた。また、この年代は、貝層中に含まれていた土器の編年とも矛盾せず、これらの土器破片が漂着し、それを包含する様に自然貝層が形成され、その後、離水したと解釈できる。更に、この時期は、房総半島では、沼 III 面(中田ほか, 1980)が形成されつつある時期となる。



第1図 ^{14}C 年代測定試料採取地点
Location of the specimen for radiocarbon dating.



第2図 住吉神社南側の露頭
An outcrop at the Sumiyoshi Shrine, Kurihama.
S と S' は同位置であり、S' より試料を採取した。右上図は、松島 (1980) を引用。

SUGIMURA and NARUSE (1954) の報告は、第 1 近似的に重要な意味を持つ。しかし、各段丘の形成時期を、 ^{14}C 年代という形で直接表現することが可能になり、より詳細な議論が要求される現在、従来の報告にとらわれず、各地域の段丘形成年代を把握し、それを用いて、再検討をする必要があるのではなからうか。

謝辞 投稿の機会を与えて下さった横須賀市博物館、蟹江康光、大塚真弘両学芸員、また貝類群集について貴重な御教示を賜った神奈川県立博物館、松島義章学芸員に厚く感謝いたします。

引用文献

- 松田時彦・太田陽子・安藤雅孝・米倉伸之 1974. 元禄関東地震(1703年)の地学的研究. 垣見俊弘・鈴木尉元編. 関東地方の地震と地殻変動: 175-192, ラティス.
- MATSUDA, T., OTA, Y., ANDO, M. and YONEKURA, N. 1978. Fault mechanism and recurrence time of major earthquakes in southern Kanto district, Japan, as deduced from coastal terrace data. *Geol. Soc. American Bull.*, **89**: 1610-1618.
- 松島義章 1979. 南関東における縄文海進にともなう貝類群集の変遷. 第四紀研究, **17**: 243-265.
- 1980. 南関東における貝類群集から見た縄文海進と地殻変動. 月刊地球, **2**(1): 52-65.
- 中田 高・木庭元晴・今泉俊文・曹 華龍・松本秀明・菅沼 健 1980. 房総半島南部の完新世海成段丘と地殻変動. 地理評, **53**: 29-44.
- SUGIMURA, A. and NARUSE, Y. 1954. Changes in sea level, seismic upheavals, and terraces in the Southern Kanto Region, Japan (I). *Japan. Jour. Geol. Geogr.*, **24**: 101-113.
- 米倉伸之・安藤雅孝 1973. 海溝系の大地震に伴う地殻変動と地形. 科学, **43**: 92-101.
- YONEKURA, N. 1975. Quaternary tectonic movements in the outer arc of Southwest Japan with special reference to seismic crustal deformations. *Bull. Dept. Geogr., Univ. Tokyo*, (7): 19-71.

Explanation of Plate 22

- | | | |
|---------|--|--------|
| 1. | <i>Serpulorbis imbricatus</i> (DUNKER) | オオヘビガイ |
| 2a, 2b. | <i>Mytilus coruscus</i> (GOULD) | イガイ |
| 3a, 3b. | <i>Ostrea denselamalloso</i> (LISCHKE) | イタボガキ |

(natural size, 現寸大)

